

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	4 月 10 日 ( 木 )	柳沢 かのん

## ● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
サイエンス～自然～ 公園にあるものを調べよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
子どもたちは、風で動く葉や雲の流れ、地面に映る影の変化など、身の回りの自然の様子に日常的に興味をもっている。 「なんで影が動くの?」「どうして雲は流れるの?」と、見たり感じたりする体験を通して、自然の不思議さに関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・身の回りの自然について問いかける	<b>【環境設定】</b> ・安全に自然を観察したり試したりできるよう、室内のスペースを整えておく。 ・子どもが感じたことや気づいたことを自由に話せる雰囲気をつくる。 ・正解を求めるのではなく、「どうなるかな」「やってみよう」と予想したり考えたりする姿勢を大切にする。  <b>【活動使用教材】</b> ・水 ・葉 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー  <b>【事前準備】</b> ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 い。
10:10～10:30	・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。	
10:30～10:40	・光や影、風の自然現象を実際に見たり試したりして観察する。  ・活動の中で見つけたことや感じたことを発表する。  ・自然の特徴や変化について、みんなで振り返る。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、身の回りの自然について考え、「風がふいてる」「雲が動いてる」「影がのびた」など、日常の中での気づきや見たことをもとに、自然の様子について発言していた。</p> <p>・公園に行き、光や影、風や水などの自然現象に触れながら、形や動き、変化に目を向けて試したり確かめたりし、自然の仕組みについての探究を深めていった。</p> <p>・振り返りでは、自分が気づいたことや試して分かったことを友だちと伝え合い、「そうだったんだ」「ぼくも見た」と互いの考えを共有して理解を深めていた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この雲、さっきと形がちがう。」</li> <li>・「影がのびてる！なんでこっちに動くの？」</li> <li>・「風がくると葉っぱがゆれるね。」</li> <li>・物の位置を変えながら影の動きを確かめたり、風で動く様子を何度も試したりして、「どうしたらこうなるか」を試行錯誤する姿が見られた。</li> <li>・自分の発見を「見て！」と友だちに伝え、共有しようとする姿が見られた。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが気づいたことに対して、「ほんとうだね」「どうしてそうなったと思う？」と問い返し、観察や考察が深まるように関わった。</li> <li>・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「○くんはどう思った？」「△△ちゃんは何に気づいた？」と対話をつないだ。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、風や光、雲や影など身近な自然に強い関心をもっていることに改めて気づいた。</p> <p>・「なんで動くの？」「どうして変わるの？」といった自発的な疑問が生まれやすい環境を用意することで、探究心が自然と引き出されることを実感した。</p> <p>・同じ自然を見ていても、子どもによって注目する点が異なり、一人ひとりの感じ方や考え方の違いがよく表れていた。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや学びが深まることがわかった。</p> <p>・「やってみたい」「もう一回見たい」という声が多く、実際に見たり試したりする体験そのものが、子どもたちの学びの原動力になっていると感じた。</p>	<p>・子どもの気づきを拾い上げ、会話や次の気づきや発見に繋げるやりとりが素敵です。</p> <p>・今後も戸外活動の際は、公園や散歩中の気づきや発見から新しい興味や関心や会話が弾むような環境を整えていけるといいですね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	8 月 21 日 ( 木 )	柳沢 かのん

## ● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
たべもの～野菜～ 野菜って何？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
子どもたちは、風で動く葉や雲の流れ、地面に映る影の変化など、身の回りの自然の様子に日常的に興味をもっている。「なんで影が動くの?」「どうして雲は流れるの?」と、見たり感じたりする体験を通して、自然の不思議さに関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・野菜の種を見せながら「どんな形かな?」「どんな色かな?」と問いかける。	<b>【環境設定】</b> ・野菜の種を実際に手に取り、見たり触れたりしながら観察できるよう、テーブルや観察スペースを整える。 ・虫眼鏡を使ってじっくり見られるよう、落ち着いて観察できる環境を用意する。 ・子どもが感じたことや気づいたことを、自由に言葉にできる雰囲気大切に作る。 ・正解を求めるのではなく、「どうして?」「なんでだろう?」と考える過程を楽しめるようにする。 <b>【活動使用教材】</b> ・虫眼鏡 ・野菜の絵本・図鑑 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー <b>【事前準備】</b> ・虫眼鏡の使い方や約束事をあらかじめ確認できるようにしておく。 ・子どもが野菜の種を手に取り、触ったり近くで見たりできる配置を考えておく。
10:10～10:30	・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 ・実際に、種を植えに行く。	
10:30～10:40	・活動の中で見つけたことや不思議に思ったことを発表する。 ・野菜の特徴や違いについて、みんなで振り返る。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、いくつかの野菜の種を見せながら「これなにかな?」「どんな形してる?」と問いかけると、「まるい」「ながい」「つぶつぶがある」など、見た目や触った感じをもとに野菜について発言していた。</p> <p>・実際に野菜を手にとって触ったり、切った断面を見たりしながら、色や形、模様の違いに目を向け、「中がちがう」「ここ白い」など何度も確かめて、野菜のつくりや特徴について探究を深めていった。</p> <p>・振り返りでは、自分が気づいたことや見つけたことを友達と伝え合い、「ほんとだ」「わたしも見た」とやりとりしながら、野菜への理解を広げていた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「このやさい、つるつるしてる。」</li> <li>・「中が白いね。なんで色ちがうの?」</li> <li>・「こっちのほうがおおきい!」</li> <li>・自分の発見を「見て!」「ここ!」と友達ちに伝え、共有しようとする姿が見られた。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが気づいたことに対して、「ほんとうだね」「どこがそう見えた?」と問いかけ、観察や考えが深まるように関わった。</li> <li>・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「〇〇くんは何を見つけた?」「△△ちゃんはどう思った?」と対話をつないだ。</li> <li>・うまく見つけられない場面でも「もう一回見てみよう」「さわってみてもいいよ」と声をかけ、安心して試せるようにした。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、身近な野菜にも強い関心をもっており、見たり触ったりすることで多くのことに気づいていることに改めて気づいた。</p> <p>・「なんで中がちがうの?」「どうしてこの色なの?」といった疑問が自然に生まれる環境を用意することで、探究心が引き出されることを実感した。</p> <p>・同じ野菜を見ている、形や色、手触りなど注目する点が一人ひとり違い、その違いがやりとりの中で広がっていく様子が見られた。</p> <p>・実際に触れたり確かめたりする体験が、「もっと見たい」「もう一回さわりたい」という意欲につながり、学びの原動力になっていると感じた</p>	<p>・自分たちで1から野菜を作る楽しさや、野菜への興味関心をより引き出すいい機会になったと思います。</p> <p>・子どもたちからも、成長を楽しむ様子が伺えるので、今後も観察を続け、芽の成長の様子や葉の形、色、葉脈など、発見を楽しめるような時間を作っていきましょう。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	12 月 24 日 ( 水 )	柳沢 かのん

● 実施計画

活動テーマ		
アート～不思議な絵～ なんの絵に見える？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
子どもたちは、絵本やポスターなど身の回りにある絵をよく見て、「きれい」「かわいい」「なんかすき」など感じたことを楽しんでいる。 また、友だちと感じ方の違いに気づき、「なんでそう思ったの？」とやりとりしながら、絵を見ることに興味をもっている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>いくつかの絵を見せて「どんな絵に見える？」「何が描いてあるかな？」と問いかける。</li> <li>子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。</li> </ul>	【環境設定】 ・子どもが感じたことや気づいたことを自由に話せる雰囲気をつくる。 ・正解を求めるのではなく、「どうなるかな」「やってみよう」と予想したり考えたりする姿勢を大切にする。  【活動使用教材】 ・名画やさまざまな絵の画像(印刷したものやカード) ・虫メガネ ・画用紙 ・クレヨン、色鉛筆、マーカーなどの描画用具 ・コラージュ用の紙(色紙・折り紙・雑誌の切り抜きなど) ・のり、はさみ ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー  【事前準備】 ・使用する絵(名画やさまざまなタッチの作品)を選び、印刷または掲示用に準備しておく。 ・子どもが見やすい大きさにし、虫メガネで細部が見られるようにする。 ・虫メガネの数や状態を確認し、安全に使えるように準備する。 ・子どもが絵を見て話し合えるよう、机や椅子の配置を整える。 ・「正解はない」「感じたことを話していい」ことが伝えられるよう、導入の言葉を準備しておく。
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>虫メガネを使って絵の色や形、細かい部分をよく見て観察する。</li> </ul>	
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の中で見つけたことやおもしろいと思ったことを発表する。</li> <li>どんな見え方や感じ方があったのかをみんなでも振り返る。</li> </ul>	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、いくつかの絵を見ながら「この絵なにに見える？」「どんな感じがする？」と問いかけると、「きれい」「なんかこわい」「楽しそう」など、感じたことや気づいたことをもとに、絵について自由に発言していた。</p> <p>・虫メガネを使って絵の細かい部分を見たり、色や形、線の様子に注目したりしながら、「ここに小さい丸がある」「この色まざってる」など発見を重ね、絵の表現の面白さや違いについて探究を深めていった。野菜の絵や写真にも触れ、形や模様をよく見比べながら観察する姿も見られた。</p> <p>・振り返りでは、自分が見つけたことや感じたことを友だちに伝え、「ほんとだ」「それおもしろいね」とやりとりしながら、絵の見え方や気づきを共有していた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ここにちいさいてんがある！」</li> <li>・「この色、まざってるみたい。」</li> <li>・「こっちの絵とぜんぜんちがうね。」</li> <li>・虫メガネで細かいところを見たり、絵を近づけたり遠ざけたりしながら、「どうなってるのかな」と何度も確かめる姿が見られた。</li> <li>・見つけたことを「見て見て！」と友だちに伝え、絵の発見を共有しようとする姿が見られた。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気づきに対して、「どこを見つけたの？」と声をかけ、観察がさらに深まるように関わった。</li> <li>・一人ひとりの発見をみんなで共有できるように、「〇くんは何が見えた？」「△△ちゃんはどう思った？」とやりとりをつないだ。</li> <li>・うまく見つけられなかった時も「もう一回見てみよう」「別の絵も見てみる？」と声をかけ、安心して試せる雰囲気を作った。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、絵の色や形、細かい模様などに強い関心をもっており、じっくり見ることで新しい発見を楽しんでいることに改めて気づいた。</p> <p>・「なんでこうなってるの？」「ここはどうなってるの？」といった疑問が自然に生まれる環境をつくることで、子どもたちの探究心が引き出されることを実感した。</p> <p>・同じ絵を見ていても、注目する場所や感じ方が一人ひとり違い、その違いが対話の中で広がっていく様子が見られた。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや理解が深まることがわかった。</p> <p>・「もっと見たい」「こっちも見てみる」といった声が多く、実際に見たり確かめたりする体験そのものが、子どもたちの学びにつながっていると感じた。</p>	<p>・先月に引き続き、興味関心が続く中での取り組みということもあり、より興味を持って取り組んでいたように見えました。</p> <p>・虫メガネは以前のわくわく研究ラボでも使用したものだと思います。作品だけでなく、散歩等に持ち出し、冬の観察を楽しむ機会を設ける事で、新しい発見があるかもしれませんね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	3 月 25 日 ( 水 )	柳沢 かのん

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～お金で何が出来るのかな～		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
子どもたちは、お店屋さんごっこや買い物ごっこを通して、お金や値段に親しみをもっている。「これいくら?」「高いね」「これほしい」など、日常のやりとりの中で値段に関心を示す姿が見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかのお金を見せてお金について問いかける。</li> <li>・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。</li> </ul>	【環境設定】 ・グループで話し合いやすいよう、机や座席を配置する。 ・子どもたちが商品やサービスをイメージしやすいよう、これまでの制作物や資料を見える場所に置く。 ・値段を考えたり書いたりできるよう、記入スペースや発表スペースを確保する。 ・自分の考えを安心して伝えられる雰囲気をつくる。 【活動使用教材】 ・これまでに作った商品や作品 ・値段を書く用のカードや紙 ・えんぴつ、マーカー ・ホワイトボード、ペン ・(必要に応じて)お金の見本やイラスト 【事前準備】 これまでの活動で作った商品やサービスを整理し、すぐに見返せるようにしておく。 ・値段を書き込めるカードや用紙を人数分準備する。 ・ホワイトボードや発表スペースを整え、意見を共有できるようにしておく。 ・活動の流れ(話し合い→決定→発表→振り返り)を確認しておく。 ・子どもたちが考えやすいよう、「お客さんの気持ち」や「作る大変さ」などの視点を事前に整理しておく。
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金をよく見て観察する。</li> </ul>	
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中で見つけたことやおもしろいと思ったことを発表する。</li> <li>・どんな見え方や感じ方があったのかをみんなで振り返る。</li> </ul>	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、お金や値段について問いかけると、「高いと買えない」「安いとたくさん買える」など、日常の経験をもとに考えを出す姿が見られた。</p> <p>・これまでに考えてきた商品やサービスについて、グループで「いくらにするか」を話し合い、お客さんの立場や作る大変さ、喜んでもらえるかといった視点から、理由をもって値段を決めていった。</p> <p>・振り返りでは、自分たちの決めた値段や理由を発表し合い、「それもいいね」「ちがう考えもあるね」と意見を共有しながら、値段の決め方にはさまざまな考えがあることに気づいていた。</p>	<p>子どもたちは、「これ100円くらいかな」「高いと買ってもらえないよね」など、お客さんの立場や作る大変さを考えながら値段について話し合う姿が見られた。友だちと意見が違う場面では、「じゃあ真ん中にしよう」などと折り合いをつけながら決めていく様子もあった。</p> <p>また、「なんでその値段にしたの？」とお互いに聞き合い、考えを深めたり、発表では自分たちの決めた値段を自信をもって伝える姿が見られた。</p> <p>保育者は、「どうしてそう思ったの？」「お客さんだったらどうかな？」と問いかけながら考えが深まるよう関わり、一人ひとりの意見を大切にしながら対話をつないだ。意見が分かれた場面では双方の考えを受け止め、子ども同士で話し合いながら決めていけるよう見守った。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>子どもたちは、日常の経験をもとにお金や値段について具体的にイメージしながら考えていることに気づいた。お客さんの立場や作る大変さなど、さまざまな視点から値段を考えようとする姿が見られた。</p> <p>また、友だちと意見を伝え合う中で考えを深めたり、折り合いをつけたりする姿から、対話を通して学びが広がっていると感じた。</p> <p>「なんで？」「どうしよう？」と悩みながらも、自分たちなりに考えて決めていく経験が、主体的な学びにつながっていると感じた。</p>	<p>・会話が広がるような環境を整えたことで、より会話が広がったように感じました。</p> <p>・今後も遊びの中やごっこ遊びを通してお金の使い方などを知る機会を作って行けると良いですね。</p>